

彌太よ、哄笑してやれ

岡本彌太の處女詩集『瀧』の序文を書いてから幾年になるであらう。土佐の正木聖夫の宅で聖夫から『彌太さんを發見したのは僕ですよ、と大江滿雄が山莊へ訪ねられた折りの話でした』ときかせて呉れた。正木は、岡本以後に僕の爐邊へ詩を届けて精進してゐる人だから話に嘘がない筈だ。

彌太の藝術を始めて發見したのは彌太自身でなければならんと思つてゐた矢先であり、妙な發見者が現はれたものだと感心してきいた。

彌太よ、わらつてやれ。

おれは君の思ひ出などは今更書く氣は起らぬ。君も間野捷魯、藤田文江、佐久間利秋、扇谷義男、佐々木一三、赤木七郎等近くは正木聖夫など、いつまでも、僕の前方百歩進んで生きてゐる事を信じたいからだ。

彌太よ、君は詩の神様になりかけ、僕や間野は、心靜かにただのただの人として朝夕の地球の皮むきだ。

彌太よ、わらつてやれ——この世の五月蠅い奴輩のたつぷりとしたもり澤山の腐れうどんを。

日本詩壇時事座談會

昭和五年一月十七日 カフエ・タイガにて

出席者	北川 冬彦	杉江 重英
	小野十三郎	………
	岡本 潤	田中 清一
	林 芙美子	宮崎 孝政

田中 それでは、これから始めます。今夕はお寒いところを有難うございます。所謂詩壇時事の問題について漫談的に一つお話をして頂きたいと思ふのですが、宮崎君に司會者になつて貰ひますから……

宮崎 適任では有りませんが、進行係といった形で司會させて頂きませう。例へば『新興詩人選集』『全日本詩集』『學校詩集』などの感想といったものとか、または諸君の思ひつかれた詩壇の時事問題を御自由にお話し願ひ度いと思ひます。そこで、北川君は今晩もうひとつ他に座談會へ出席されるお約束があるさうでお忙しいでせうから、どうぞあなたから皮切りをやつて下さい。(北川氏に向つて)

北川 僕の考へでは『學校詩集』と『新興詩集』とは、ともかく存在理由があるんでせう。

田中 『全日本詩集』『新興詩集』或は『學校詩集』などと、いふやうに、詩集が澤山出ますが、さういふものが出る何か詩壇的にも根據があるのではないかと思ふのです。

北川 根據と云へば、それはやはり舊詩壇に對する新興詩壇の力として現はれたのだと思ひますね。林 反抗と思ひますね。

田中 文壇ばかりでなく、詩壇的にも清算期に立つて居る時期でせうからね。

杉江 それから何か集團的に、新しい中心的なものを求めて居る傾向が、さういふものになつて現れて來たのでないでせうか。舊詩壇に對する反抗、さういふやうな氣持もあるでせうけれども。

田中 詩壇が所謂文壇傾向をとつてゐることは事實ですね。

杉江 詩人がたゞばら／＼と散つて居るだけでは、結局それはどうなるか分らないのですね。

林 本當にばら／＼になつて居るばかりではね……

杉江 ばら／＼になつてゐても、その間に何か連絡があればね。

小野 その點で僕は『學校詩集』は新興詩人選集とか又は全日本詩集とかいふものとは、ちよつと行き方が違ふと思ふのです。自家廣告のやうになるけれど。

北川 僕には『全日本詩集』などは全然認められません。

田中 『學校詩集』といふのは、その中でも友情で結ばれた詩華全集ですか。

小野 必しも友情だけだとは思はない。アナ系詩人の大同團結とも見られれば見られるんです。勿論こゝに集つてゐる人全部がさうだと云ふわけではありませんが、大體に於いてこゝにゐる人は皆一つの同じ目的に向つて動いてゐる同志だと云ふことが出来ます。この點『新興詩人選集』な

どよりは十倍も尖鋭です。ナツプの日本プロレタリア詩集に對立する有意義な出版だと僕は思つてゐます。

(この時、岡本氏出席)

宮崎 岡本君、何か感想がありませんか。

岡本 サア、僕は今來たばかりですから……

杉江 僕は思ふのですがね、いろ／＼アンソロジーが方々に澤山出來て、それらが何かの動機で一緒になるやうなことがあつたら、非常にいゝと思ふ。

田中 さうですね。そんな一つの過程ですね。

杉江 その意味に於てあゝいふものはいくらで出て來てもいゝと思ふ。

宮崎 詩華集編纂者が見識をもつてやつたものは意義もあるだらうが、ただやつてみただけのものでは困りますね。

杉江 さういふ言へばさうだけれども、しかしやりたい人は誰でもやつていゝと思ふのです。

宮崎 けれども、『全日本詩集』のやうなものだつたら結果に於いて心ある執筆者はもうすこしどうにかならなかつたものかなと思ふだらう。折角の努力だがあゝいふものは感心出來ないね。

杉江 さういふことはあるかもしれないが、しかし、いゝものはいゝのだし悪いものは悪いのだから、さういふことは構はぬと思ふのです。

宮崎 さういふ考へ方もあらうが、その『詩華集』が讀者層へ與へるものが何んであるかといふ點で、ひのないふらふらしたものではないからね。『學校詩集』『新興詩人選集』は吾々にさういふ點で

はつきりしてくるところが有るやうだ。

杉江 それはさうですね。

宮崎 ぢや、これはこれ位にしまして、お話しをおすゝめ下さい。

田中 今日お集りの諸君は、皆詩人協會におは入りになつてゐるのでせう。私は出たのですけれども……

北川 僕は、はじめつから這入りませんでした。

林 私もはいらぬんです。

小野 じゃみんなですね……（哄笑）

林 二三日前、私は入らないとかいふ勧誘を頂いたのですけれども……會費三圓を取つて何をするのせう。

田中 あの會は誰が主にやつて居るのですか。

林 前は北原白秋あたりだつたんでせう。前は北原さんの家が事務所でしたが、今はモンパリとかが事務所ですね。

小野 井上君が奔走して居るやうですね。

宮崎 諸君は會員でない方ばかりですから、さういふ立場から詩人協會といふものを考究し、批判するといふ事も、協會及び協會員諸君へのおせつかいでなく非常に大切なことだと思ひます。協會員諸君に對しても、またこれから入會しようとする詩人にも、何等か貢献することがないとは言へませんから、お互いに忌憚なくやつてみませう。

田中 あの會が始め設立された當時は、無論、相當の根據なり理由があつて出來たことでせうが、現在に於てどういふ役割をして居るのでせうかね。

北川 つひ先立つてまで知らなかつたのです。もう無いのかな、と思つて居た。

岡本 僕もないのかな、と思つて居たところへ勧誘狀が來たのですが、返事を出す氣にはなれなかつた。

林 顔振れが縁遠い、古ぼけた人ばかりですね。

田中 あの會は何かやつてゐるのですか。

杉江 何もやつて居りません。

林 あんなものは一層減した方がいゝですね。

小野 規則書なんか見ると、別に強いてこちらから反對してみる氣も起らないが、とにかく自分の方から氣持が積極的に動いてゆかないかぎり入つてもしやうがない。向ふでも困るだらう。

北川 しかし、あの『詩人協會』といふのが、社會的に日本の詩壇を代表して居るやうに見られるのは、非常に困つたものですね。名稱が名稱ですから。

林 寧ろ一番後から來て居る會ですよ。コツコツとね。

田中 何もしないのだつたら、コツ／＼もないのですかね。

岡本 僕はどうも一體あんな風のことを眞面目には考へられない。直ぐどうだつていゝやつて氣になつちやうんです。僕等の關心事とはあんまり縁遠いからな。

田中 存在の意味がよくわからないのです。評議員だとか何だとかは澤山なことが書並べてあつた

としても、さういふことは一つも働きが無いのですからね。現在に於ては、あの中の主だつてやつてゐる人が、自分に對しては意味があるでせうけれども、集團的に見ては全然意味が無いと思ふのです。

杉江 今度また評議員が殖えたやうですわね。

小野 評議員だなんてイヤだな。

林 評議員を澤山拵へても何もならないぢやありませんか。

北川 あの中には、日本詩壇を押しすゝめる力をもつた有能な人が、殆んど見當らない。

田中 さういふ眞面目な人は、考へても先づ這入り手が無いのです。

林 恩給者ばかりは入つてしまふ、舊い人ばかりがね。

北川 それに伊福部なんていふ、ウズギタナイ男があるぢやないか。

林 それは面白い。(笑ふ)

田中 會員とすれば、可なり多数の人を擁してゐるのでせうがね。

杉江 今二百人近く居るでせう。

林 それから取り立てるお金はどうなつて居るのでせうか。

田中 仕事をすれば無論誰だつて金を出すのでせうが、仕事をしないのですから何等の意味がない。

杉江 會員の殆ど大部分は、會に對して無責任なんですわね。僕はそんな風なのが大好きなんだ。

小野 本當に詩人協會を動かして居る人は何人位居るでせうか。誰がやつてゐるのか分らないのですわね。

林 今更詩人協會で雑誌を出したつて、何にもならないと思ふのです。

岡本 雑誌でも出せば今まで餘り發表機關のなかつた人がはいつて来て、それで何とか恢復して行かうといふつもりだと思ふが、そうだとすると猶さらはいるのがイヤだ。別に悪いことだとは思はんが、僕は御免だ。はいれば言ひたいことを遠慮なしに言ふ。さうすると先方でも始末に困だらう。まア遠慮しといた方が無事だ。

杉江 宮崎君、君はどういふわけで詩人協會をやめたのですか。

宮崎 僕は腹が空いてゐるのかあないのかわからない氣持で歩いて行くことがイヤになつた。何かびんとした張りつめた氣持が欲しかつたので非常に協會には期待しながら頼りなくなつたのです。これからどういふ風に詩人協會が行動し發展するか知らないが、僕が脱會届を出した頃までは他の人々はどうかわかりませんが、僕自身は協會の一員としてどうにも盛返してくる熱情がなくなりました。

藝術的に結合された眞面目な集團であるならば、或は最後の一人になるまでつながつて居つたかも知れないが、つくづく考へて見ると、相互扶助を名目の大なるものとする詩人協會から形式の禮節を受けるまでもなく、自分でやつて行けさうだし、それ以上に加入して居ることも意味の無いやうに思はれたので脱會した。勿論會や會員には惡意が有つたわけではない。君(杉江氏に向つて)はどうして脱會したのだ。

杉江 僕は別段深い理由はない。たゞ現在のやうな、あつても無くてもいゝやうなものは、氣持の上からは入つて居らぬ方がいゝと考へたから……

小野 詩人協會にはいつて居る連中は知つて居るけれども、その人たちも、入つても入らなくてもどちらでもいゝ、さう言ふ氣持で僕は入らないが、その人たちは入つてゐる。そんなものだと思ふ。

田中 文藝家協會のやうに、所謂經濟的補助なりやつて、病氣をするとか或は人が死ぬとか、さういふ見舞金をさせるのではないでせう。

杉江 しかし何等の報告もないのだから何をしてゐるのか一向わからない……。

田中 聞かないのですね。

林 文藝家協會は、いち／＼評議して居りますね。

田中 相互扶助といつても、その目的を達せられないやうに思ひますね。

宮崎 僕が加入してゐた頃は計畫は多少立てゝあつたらうけれども、會の消息は會員でありながら聞き洩す事がまゝあつた。讀賣新聞に協會員中數氏の詩を掲載するやうになつたからと言って、吾々から詩を取つてゐながら、その後はどうなつたか忘れほいのも遺憾に思つてゐたが、そんな事も、もう會とは關係もないのですから問題にしくともよいので悦しい……。

杉江 しかし、今更そんな事を言つてみたつてしやうがないから、この話はこれでやめたらどうだね。

林 なんだか政府のやうな感じがするのですから……

田中 だから吾々の任務から詩人といふ名前だけを、廢名することにすればいゝと思つてゐます。混同されなくつていゝと思ふ。

北川 今度みんなに入會勧誘状を出したといふことは、何か意味があるのぢやないのですか。

田中 脱會者が多いからではないのですか。

北川 もつと積極的に、善意に解してやつたらどうですか。

林 何か働きかけやうとはしてゐるやうですね。

宮崎 詩人協會の事業をもう少し眺めて行つて教へられる處があれば僕は喜んで加入します。加入させてくれなければそれまでですが、よい會に入るにはちつとも羞しいと思ひません。まあ、この話はこれ位にして頂きまして、どうぞ皆さんの方から何かもつと伺ひたいと思ひます。

小野 君の方から問題を出して呉れゝばいゝと思ふな。

宮崎 今日皆くつろいで話をして頂くことにしてあるので改まつて、まるで學校の先生が問題を出して、答案を書いて貰ふやうなことでは、餘り芳しくないと思ひます。それでをのづから話を運んで下されば、なんでもない事の中からも、お話し手が諸君である以上、味ひの深いお話が承れると思ひます。

林 詩神はなかなかみんなが目をつけてゐますからね。

宮崎 それでは、かねがね話題を豊富に持つて居られる小野君あたりから。

田中 『詩と詩論』に就いてはどういふお考へですか。

小野 『詩と詩論』と全體的に言はれると困りますけれども……

田中 無論中にはいろ／＼な理想をもつてゐる人も居りますけれどね。

小野 最近、しかし僕一人の考へか知らんけれども、『詩と詩論』も清新なものを無くしたやうな

氣がする。所謂『尖端的』ですらもなくなつた。

田中 爲すべき仕事は爲し盡したやうな感じがあるね。

小野 さういふ氣がするね。始めは何か非常に潑刺したものを感したけれども。

『詩と詩論』でプロレタリアの詩人對シユル・リアリストの論争をやらせる計畫があると云ふやうな噂を聞きましたがあれはほんとうですか。さうでもしないと、近頃のやうに研究や紹介ばかりではあまりに不生産だからな。

北川 あれはフランスの超現實派の中で、左翼と右翼との二つに分れて論争があつた。それを僕が『詩と詩論』の第六卷で紹介する約束をして来たけれども、まだやつてゐないんだ。

小野 殆ど左へ行つたさうですね。

北川 『詩と詩論』は、一九一九年には充分存在理由があつたが、一九三〇年の今日では殆ど存在理由がなくなりかけてゐます。

田中 あの中の對立は困ると思ひますね。

北川 あの雑誌全體が超現實主義によるものと見られてゐるのは弱りますよ。現實派の人が何人もゐますからね。

杉江 これからどうなるのでせうか。

北川 没落してゆくのではないでせうか。

杉江 没落といふ意味を、もつと詳しく考へて見るとどういふことになるのですか。書けなくなるといふことになるんでせうか。

北川 つまり、存在理由がなくなるから、従つて誰れも問題にしなくなると云ふ意味です。書くこ

とは書くでせうが、そして、しつかりした連中はどんどん轉換してゆくのでせう。

杉江 しかし一向……

小野 これからも矢張りずつと書いて行くだらうと思ひます。始め、たとへば上田敏雄君のものを讀んだときは、何か廣い意味で革命的氣魄を感じたのですけれども、最近上田君のを見ても、少しもさういふ感じを受けないのです。安西君や三好君のものは好きです。

田中 本質的には、詩といふものは現實的なものではないのですか。佛蘭西あたりでは……

現實的でなくなるところに、一種遊びのやうなものが交つて來るのではないでせうか。

北川 現實の上に新しい現實を拵へる。これがほんとの超現實主義であつて、これなら僕も異存はないけれども、所謂超現實主義は、ことに日本の超現實主義は土臺の現實が無くなつて上の方で遊離してゐるから意味がない。

田中 さうです。遊離することが一番いけないのですね。

林 いろ／＼なものが出るから譯が分らない。

岡本 いろ／＼面倒臭い名目をくつ付けなくちやならないといふことが、どうも分らない。何にしる一體『名目』なんてものは不必要だ。

田中 そこに縛られるところに破綻が出来るわけですね。

宮崎 (岡本氏に) プロレタリアの方にマルキストとかアナキストとかあるでせう。小説は別として、それが詩なぞの場合は、假りに作者名がないとしたならば、僕等のやうな素人眼から、どれ

がアナキストかマルキシストの書いたものか分らないのが多いやうだね。

岡本 それは、しかし當然違ふものだと思ふがな……

これはアナキズムだ、これはマルキズムなどと一々ことわらなくとも、文句なしに表現された詩の上で違つてゐなかつたならば、その人は本質的にマルキシストでもなければ、アナキストでもないと思ふ。詩論として片付けられる問題でなく、どうしてもその人の根本的な生活態度の問題だからな。アナキストとマルキシストと同じ生活態度を取つてるといふことは有り得ない。

宮崎 プロレタリア詩人と稱する者の中でも、所謂プロレタリア・フワンといふ程度の者が随分あるのではないですか。それが自分で自分こそはプロレタリア詩人なりと考へてゐませうし、または、プロレタリアとして働いて居るやうにも、世の中すら誤認して居る場合が多いのではないですか。だから僕等から見れば、みんながプロレタリアとしての行動と作品をもつプロレタリア詩人で、あなた方仲間から見れば、それは純粹な同志ではなく、プロレタリア・フワンといふ者も随分多いだらうと思ふのですが如何ですか。

岡本 それは確かにあるにはある。しかし、それをどうするといふよりも、先づ自分自身が問題だ。僕は今自分ではつきり解決が付いてゐないけれども、いはゆる『プロレタリア詩人』といふ、さういふ『名目』がだん／＼分らなくなつて來た。まるで一つのレッテルみたいなものになつて來てると思ふ。レッテルなんか無くつたつていゝんだ。

宮崎 作品の讀者はプロレタリアとか何とかなしに、作品の價値にちかにふれてゆきますね。

岡本 何よりもその人がプロレタリアの動向と有機的に結びついてゐない限り、プロレタリアとし

てのほんとうの詩は生れる道理がない。だから結局、アナキズムの詩とマルキシズムの詩の相違は、單に詩論の上だけでの問題としては片附けられず、その人が眞實アナキストであるか、眞實のマルキシストであるかの相違になつてくる、その間妥協の餘地は絶対にないですね。

田中 何か現在の詩壇に於て、際立つてお氣付きになつたやうなことは無いですか。まあ詩壇の一つの現象ですね。

宮崎 この間『宣言社』の座談會にちよつと出たのですが、詩集出版記念會などは、もつと有意義なものにしたいですね。

田中 文壇では餘り無いやうですね。出版記念會といふものは。

北川 無いやうです。

田中 自費出版するときに出版祝賀會をやるやうですけれども。

小野 記念會のことなんか問題にしなくともいゝよ。

林 詩が、なんだか餘り文壇の方から手慰み……と言つては悪いけれども、閑却されてますね。もつと乗取ると言つてはおうげさだけど、雑誌なんかでも安賣りしないで強く行くべきですよ。五十錢でも一圓でも賣るから清算されないんですよ。小説と違つて詩は事務ではありませんから

ね。全身全靈を打ち込むんだから、もつと高かく評價されてもいゝんですよ。

田中 それは僕が前から考へて居ることです。『詩神』を私が興した最初の理由は、さういふところにあるのです。どうも詩の雑誌とか、或は詩壇といふものが、文壇とは全然別なものになつてゐるのです。なんだかあれは詩人だからといふやうに、全然別の存在になつて居るのは奮慨に耐

えないで私は出したのです。だから文壇の澤山の人から書いて頂いています。その點では大いに努めて居るのですけれどもね。

林 詩人は繪描きと同じに皆呑氣坊が多いのですから、もつといふ意味の大きな野心を持つて貰ひたいと思ひます。

田中 同時に若い人が多いから、さうですね。

林 雑誌を見ても、ほんの詩壇のところだけ活字が小さくてね、小説なんか事務ですよ。詩は情熱で體いつばいで書いて居るのだから、大きな活字で書かなければ嘘だと思ひますね。それは私達が要求したのですけれどもね。

宮崎 活字が大きくなると、内容が空っぽになつて困りはしないですか。活字が小さくても空白まで生きてくるやうな作品があればよい。(笑)

林 詩人がそんなことを云つてはいけません。詩は藝術の先頭を行く旗ですよ。

宮崎 くだらない空元氣の旗は何にもならないね。

林 何にもならなくても……何もありません。

小野 詩神の編輯方針等も、はつきりこの際きめてもらふと参考になると思ふのですがね。

田中 どうも詩神も現在のところでは……

小野 文壇の人より澤山原稿を買ふことも結構と思ひますが、詩神を見ると何か間に合せの屑ばかり集つてゐるやうな氣がしてしやうがないのです。賣れ残りの原稿ぢやね。

田中 小説といふよりも、多く隨筆なんか頼むのですが、それも經濟上からきてゐることなんです。

兎に角文壇の人は一枚でも可なりの金を取つて居るのだから、逆もしやうがないのです。始め小説なんか載せる必要があつたのですが、どうも原稿料が澤山かゝるので止したのです。讀者の方でも、小説なんか載せなくとも、兎に角『詩神』は詩の雑誌であればいゝのではないかと、あつちこつちからさういふ手紙が来るやうなわけです。で成べく詩の雑誌ですから、當分詩だけ載せた方がいゝと思ふので、近頃は小説を載せないやうにしてゐるのです。

宮崎 最近『詩神』の方の旗も餘りよいものが少くて困つたものだな。

北川 さうでもないよ。段々いゝ旗も出來て來てゐる。

林 文壇だつてさうでせう。

田中 文壇から別個に扱はれるといふ理由の中に、詩人はなんだか文壇の奴等が、といふやうな反撥して可なり輕蔑的な氣持でやつて居る人があるのではないかと思ふのです。さういふところに所謂詩壇といふものが全然繼子扱ひにされるのではないかと思ふのです。去年の終りでしたか、文藝日記なんかでも詩壇だけは一年の概観がないのですね。それから新潮なんかにもありませんよ。

林 文藝春秋にはありましたよ。

宮崎 かりに、各社で出す年刊などで詩人の住所などがあつても、よく調査したものだと思はれるのは少いですね。萬年詩人と萬年住所録といふのが新聞社あたりの年鑑にまで拜見する。

杉江 雑誌の編輯者に、詩に理解のある若い人があるといゝのですがね。

田中 文壇では詩の分る人が少いのですからね。

北川 文壇人にも随分分る人があります。詩が判るといふよりも詩人なんだ。横光利一、川端康成の諸氏なぞ……。

田中 阿部君とか……

北川 文壇の人達から詩人たちが相手にされなくなつたのは、その責任はわれわれの先輩にあるのです。先輩たちが詩人に對する信用を墜して仕舞つたんだ。が、最近大分信用をもちかへして来たやうです。それは、『詩と詩論』なんかは大いに與つて力があつた。

田中 さうですかね。

林 迷惑ですね。

田中 何かお氣付の點がありませんか、どうも此方からばかり饒舌るのも面白くないから。
杉江 どうぞ御遠慮なく……

田中 今まで、詩神は座談會を開く機會が少かつたのですけれども、これから毎月開かうと思ひます。さうして詩壇なり、また文壇から見た詩壇とかいろいろさういふことをやつてゆかうと思つて居ります。

宮崎 そのうち主催者側も馴れてきますよ。

林 この間も女の詩人ばかりで集まつたのです。ちりちりばらばらであるより、何か仕事をしたといふやうな氣持で。

宮崎 それは詩人ばかりでないのでせう。

林 いゝえ、女流詩人ばかりですよ。それで年三回か四回位の計畫で集つたのですけれども、矢

張りそれが……

田中 雑誌の刊行ですか。

林 え、さういふこともやつて行かうといふのですが、だけれども、それは今の詩人協會式になつて行つて居るやうな氣がするのです。お茶を呑んで、雑談したつてつまらない。

宮崎 なぜ女だけの詩人會をやらなければならなくなつたのですか。

林 それは知りませんよ。只集りがあるからと言つて來たので……

杉江 どういふ人達が發起されたんですか……

林 深尾須磨子さん、生田花世さん。

北川 『詩神』の新年號に伊藤花子といふ人が載つて居りますね。あの人はどういふ人なんですか。

林 どんな方かよく存じません。

田中 戦旗だらうと思ふ。私はさう覚えてゐます。

北川 あの詩はなかなかいゝですね。

林 さういふ風に男の方が褒めて下さると嬉しいのです。

宮崎 矢張り『女だけの會を作りませう』つてな事でなしに大きく動いてゆく心掛が必要と思ふね。

田中 しかし、女ばかりの雑誌があつてもいゝと思ふ。僕はさういふ氣持があつて、『詩神』の今年一月號に『日本女流詩人研究號』を出したのですがね。

林 集つた時は非常に團結するやうな顔をして居つても、後で支離滅裂なやうに……なんだか悪口のやうになりましたが。

杉江 『詩佳人』といふ女流詩人の雑誌で、女流詩人ばかりの詩華集が出るといふことですね。

林 あれはお嬢さん達の集りです。

宮崎 林さん位からお婆さん組になるのかな……(笑)

林 詩佳人にはお婆さんだつてみますよ。只あの人達の生活が違ふのですよ。なんだか、あゝいふ人達は草花のやうな気がしますね。さういふと井上さんが怒るかも知れませんが、あれは井上さんが後楯になつてやつて居るのですから……。どうですか田中さん、女流詩人の後楯になりませんか。

田中 なつてもいいのですがね。(笑)

宮崎 しかし、お断した方がいゝと思ふね。詩の讀者程度の人々の後楯になつても、何にもならないからね。女流詩人に感心した人は居りませんか。

林 宮崎さんは悪口が多くつてね。厭ぢやありませんか。

北川 搜したら居るぢやないですか。伊藤花子といふ人の詩はいゝですよ。

宮崎 都會畑のでギヤギヤ騒ぐ女よりも、田舎畑にいゝ女流詩人がゐて黙つて勉強してゐるさうな気がするね。

林 碧静江さんなんかいゝ詩人です。

田中 あの方では伊藤さんとか、松田さんとか……

林 松田解子さんはいゝ詩人です。

宮崎 詩神の投稿家藤田文江といふ詩人に注目して欲しい。目下勉強中だが、この人などは非常に

がつちりしてゐます。又信州に萩原奈加といふ詩人がゐて、以前投稿してゐた。この人などは有望な詩境を成長させつゝある。目下花穂に作品を発表してゐます。

林 だけれども、偉い女流詩人なんか書いて居るものを見ると、下手糞が多いですね。女の詩人が偉くなる……と言つても誤謬がありますけれども、直き固つて弾力がなくなりますね。

田中 いゝ人があつても餘り伸びないことは事實ですね。

林 伸びませんね。

田中 これからは女の人がウンと出るでせう。

林 さう言つて下さるといゝわ。宮崎さんのやうに悪口ばかり……ではね。

宮崎 僕は悪口はいつも慎んでゐるのですが、つい自分だけのつもりで憚りのない處を言つてゐるのです。(笑)

岡本 女嫌ひなんだからね……

林 へえ……そうですかね。(笑)

宮崎 しかし、僕も女の中で現代女流詩人で御座るといふ感じが嫌ひなまでだ。

田中 日本の女流詩壇で、所謂ハンデキャップなしに男に對抗して居る人は、現代では珍しいやうに思ふのですが。

林 そう言へば男の詩壇だつて大したものはありませんよ。それは私が言ひ棄てる。絶対にない！

宮崎 昂奮しなされるな。心臓をわるくしますよ。(笑)

田中 敷からいつても女は少しいし、特にいゝ人は少いやうですね。一時よくても直ぐ下る。

林 さうなんです。非常に上つたときと、また下る度が目に見えて判るのです。

北川 林さん『詩神』の新年號の女流詩人號はみな御覽になりましたか。

林 なまけてみな見ません。

北川 伊藤花子の外に、もう一人二人いゝ詩人があますよ。

宮崎 なまけてなぞとは不親切だな。さういふ不親切さは考へ直してみてほしい。

林 ところが私は男の詩ばかりを先に読んで居るのです。さうしていゝ詩を見ると、ナニ糞といふ反抗の氣持になるのです。

宮崎 男もいゝ詩人ばかりではないでせうが、女流詩人といふものがある以上もつと頑張つてやつてください。それが出来なければ詩を發表しようなぞといふ考へを廢して下さい。

林 ところが私は去年までは女の詩はつまらないと思つて讀まなかつたけれども、これからは讀みます。

宮崎 その心掛けがあつてほしい。だが女のくせに女に好意がないと、それこそ憎まれますよ。(笑)

林 大丈夫ですよ。女に好かれなくとも男に好かれますからね(笑)。と、これはじょうだん……。

宮崎 餘程時間も経過しましたのでお疲れの事と思ひます。今晚はこれ位に打切らせて頂きまして、第二回、第三回の座談會にも諸君のお話しを承る機會があるやうでしたら悦しく思ひます。司會者の立場にある私まで、つい知らず知らずハメをはづさせて頂いた程非常に寛いだ會が出来まして愉快でした。有難うございました。



孝政が描いた林美美子